

生活環境 の整備のために

主な事業と予算額 (単位: 万円)

○準幹線排水路、市街地側溝整備	1,435
○都市計画街路・一之町下江線改良	4,447
○道路舗装改良、排水路等整備	9,900
○庄瀬真木新田線測量調査委託	200
○古川下八枚線道路改良予備設計委託	100
○中鷲ノ木国道線測量予備設計委託	100
○地方道路整備 (菱潟新田田尾線・須藤小路線・小蔵子白蓮線)	9,700
○ロータリー除雪車等購入	2,822



道路整備に全力

市民の皆さんの要望が最も多い道路整備。躍進する市の動脈として、本年度も引き続き整備に全力を注ぎます。

▽国道 特定交通安全施設整備事業などにより、交差点の改良整備、歩道設置を継続して進めます。また、昭和六十三年十二月に都市計画道路として計画決定した国道8号の四車線化。本年度は大野大橋の新橋建設に着手するなど、国の協力を得ながら事業の促進に努力します。

▽県道 白井バイパス、白根バイパスの工事促進に努めます。特に白根バイパスのみの口から一之町下江線までの早期暫定開通の実現に努力するとともに、小須戸橋の暫定歩道橋設置など、橋梁整備の具体化に向けて努力します。

▽市道 市民生活と密着する集落内の道路、排水施設などの整備に力を入れます。本年度は菱潟新田田尾線、小蔵子白蓮線の改良整備、茨曾根鬼新田線の交通安全施設整備、須藤小路線の歩道設置など、継続事業の促進と早期完了に努めます。

ほ場関連道路の舗装については当初計画を見直し、そのうち九二%が完了しました。残事業についての早期完了について努力します。

▽都市計画街路 白根総合公園

へのメイン道路として重要な一之町下江線。白根総合公園までの間を一部暫定開通させるため、市単独事業として予算計上しました。

市街地の交通渋滞緩和と対岸を結ぶ重要路線として整備を進めてきた市道鱈湯古川線は、本年度完成する予定です。

農村総合整備

モデル事業が完了

農村総合整備モデル事業は着工以来十五年を経過。この間十六億九千万円を投じて道路、排水路、防火水槽、農村環境改善センター、農村公園などの整備を図ってきました。本年度は道路、水路、防火水槽を整備。これにより同事業は完了します。

さらに地盤沈下対策、河川整備、排水対策、都市下水路の整備、国土調査事業などについても引き続き努力していきます。また、雪害対策としてロータリー除雪車一台、歩道除雪機械二台を増強します。

国土利用計画を策定

本市の土地利用に関する行政上の指針となる「国土利用計画(白根市計画)」を策定しました。これは都市の諸活動が最も効率的に行われるよう、土地利用全般についての基本的方向付けを定めます。

けを行ったもので、昭和六十年を基準年次とし、目標年次を平成十二年としました。

交通安全都市を宣言

平成元年中の市内での事故発生件数、負傷者数はともに減少しましたが、死亡者数は横ばいとなりました。本年度は市制三十周年を機会に「安全で安定した生活、交通事故のない明るい白根市」を築くことを目指し、「交通安全都市」を宣言します。さらに交通環境の変化などに対応した安全施設の整備を進めながら、関係機関団体とともに交通安全思想の普及徹底に努めます。

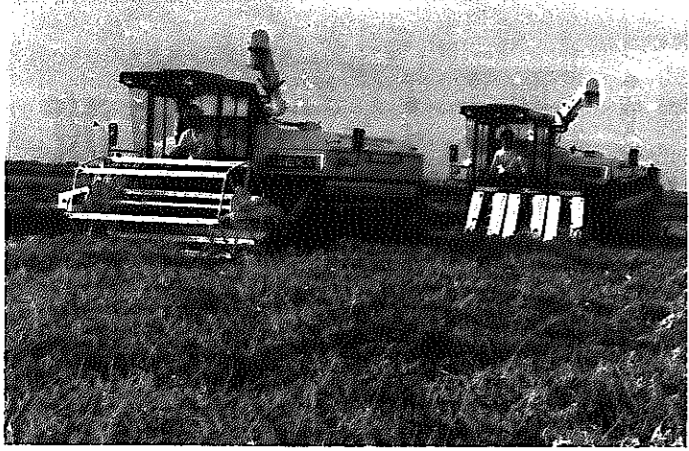
住居表示を実施

平成元年度に水道町地域での説明会を開催。ほぼ合意を得ることができました。今後、細部の詰めを行い、本年度早々にも実施に移します。

火災予防の徹底を

昨年、市内の火災発生件数、焼失面積、損害額はいずれも増加しています。本年度も可燃式小型動力ポンプの更新や消防水利などの整備を進め、火災予防の徹底と初期消火活動による被害の軽減に努めます。

産業振興 のために



主な事業と予算額 (単位: 万円)

○生産組織育成事業補助	840
○嫁婿対策推進事業補助	150
○大型高能率機械施設導入事業補助	550
○有機栽培米展示園設置事業委託	36
○水田農業確立対策事業	11,611
○商店街活性化(イベント)事業助成	100
○鳳合戦お祭り広場実行委員会補助	80

農業

体質の強化と生産性の向上を

農畜産物自由化の流れの中で米をめぐる情勢は予断を許さない状況にあります。

水田農業確立対策の後期対策が、平成二年度から三か年計画で取り組まれることになりました。本市にもほぼ昨年と同程度の九百六十三・二畝の目標面積が配分され、よりいっそうの体質強化が求められています。この目標達成について、農家はもちろん関係機関が一体となって努力し、農家の総所得確保と増大に向けて取り組めます。

水田農業確立対策関連事業として、転作物物の生産性向上や生産組織の育成、転作推進のための条件整備に取り組むとともに、加算制度の積極的な活用を推進していきます。

複合部門を強化

本市は米を基幹とする総合食糧供給基地として、その体質改善に努めてきました。今後も引き続き園芸生産の拡大、協業化と生産組織の育成による作業の効率化、生産コストの低減を図りながら、地域に適合した複合部門の強化を推進してい

担い手の育成に努力

農業の担い手としての中核農家、組織のリーダー、後継者の育成を、関係機関と連携しながら進めていきます。

また、昨年から若い農業後継者の嫁婿不足を解消するために実施した嫁婿対策推進事業を、本年度も引き続き行います。

商工労働

人材の確保に努力

最近の経済情勢は個人消費が順調に推移し、製造業、非製造業とも設備投資の増勢が続く、拡大傾向にあります。しかし労働力の需給については引き締まり、企業の人手不足感は広がりをみせています。このような経済情勢を反映し、市内の企業にとっても人材の確保と育成は大きな課題といえます。

本年度は新規卒卒者を対象に市内企業の求人説明会を開催、

商店街を活性化

二つの大型店の出店が計画される中で、商業環境は極めて厳しい対応を迫られています。そこで、昨年度に引き続き商店近代化相談事業に助成し、個々の商店の近代化を助長します。さらに、市内各商店会が実施しているイベント事業に対する助成策を強化。既存商店街への集客力を高め、消費者の定着と地域の活性化を目指します。

観光開発を推進

昨年度設立された観光協会を核に、その組織を充実させながら観光開発の推進に努めます。昨年好評だった大風合戦の観覧船を本年度も設置。観覧席を増やすことにより観光客と風合戦に参加する人の事故防止に万全を期します。

また、平成三年にオープン予定の「新潟ふるさと村」に本市特産品の出品などを奨励し、物産の振興を図ります。さらに展示会の開催や研修会などに助成し、白根仏壇をはじめとする地場産業の振興に努めます。